

ニーズに沿った心理支援を考える冬季研修会へのお誘い

諸領域における心理支援の動向と基本知識

一般財団法人日本心理研修センター主催

一般財団法人日本心理研修センターは、昨年4月1日に設立されました。当センターでは心理職の資質の向上及び協働させていただき諸職種の皆さまとの連携を視野に、以下のような二つの日程で、基本的な知識獲得の研修会を開催いたします。

【その1】期日：平成26年2月22日（土）10:30～16:30（10:00開場予定）

【その2】期日：平成26年2月23日（日）10:30～16:30（10:00開場予定）

【会場】その1、その2ともに、大阪人間科学大学庄屋学舎

〒566-0012 大阪府摂津市庄屋 1-12-13 JR 京都線「岸辺」から徒歩10分、阪急京都線「正雀」から徒歩5分

【定員】合計1000名 【参加費】一講座7,000円

【参加資格】臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、その他心理に関係ある資格を持つ者、心理職実務者、守秘義務のある専門職（医療・福祉・学校・警察・防衛等）、心理学関連大学院生

【申し込み予約】一般財団法人日本心理研修センターホームページより <http://shinri-kenshu.jp>
ポイント等の申請につきましてもホームページからご確認ください。

【共催】（予定）一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構、一般社団法人日本臨床発達心理士会、一般社団法人日本学校心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会

【後援】（予定）厚生労働省、日本行動療法学会、一般社団法人日本発達心理学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人東京臨床心理士会、日本発達障害ネットワーク

【その1】

プログラム第1）発達障害と脳機能

10:30～16:00：小野次朗（和歌山大学教育学部、特別支援教育、小児科学）
発達障害における主な合併症・併存症と予後について
発達障害における薬物療法の適応と効果について
発達障害における二次障害とその背景要因について
医療と教育、心理の連携の必要性について
16:00～16:30：質疑（司会 竹田契一 大阪医科大学 LD センター）

プログラム第2）ウェクスラー検査の展開－WISC-IV・WAIS-IVの新しい動向－

10:30～16:30：上野一彦（日本 LD 学会理事長 日本版 WISC-IV 刊行委員会代表）
領域スタンダードなキャッテル・ホーン・キャロル（CHC）理論からの説明、日本版 WISC-IV、現在開発中の日本版 WAIS-IV さらに今後のウェクスラー・ファミリーの動向について、開発側のコンプライアンス、使用側の倫理規定、所見報告の書き方などについて、今後の心理職等のアセスメントの在り方についてなど、さまざまな話題を講じます。

プログラム第3）精神障害・発達障害の薬物療法のテーマ

10:30～12:05、13:05～14:40：辻井農亜（近畿大学）
統合失調症の薬物療法について、発達障害の薬物療法について
14:55～16:30：稲田泰之（稲田クリニック）
気分障害・不安障害の薬物療法について
心理専門職が知っておきたい向精神薬の最新知識を在阪の臨床専門医に講義いただきます。

【その2】

プログラム第4）依存

10:30～12:00：野田哲朗（大阪府立精神医療センター）
アルコール依存と治療
13:00～14:30：倉田めば（大阪ダルク施設長・フリーダム代表）
薬物依存におけるピアヘルプ活動について
14:40～16:10：高橋裕子（奈良女子大学健康管理センター）
ニコチン依存と治療
16:10～16:30：質疑（司会 山田富美雄 大阪人間科学大学）

プログラム第5）精神療法・認知行動療法

10:30～16:30：原田誠一（原田メンタルクリニック）
（途中昼休み、休憩あり）

症例のニーズに応じて、必要時には認知行動療法的なアプローチも実施できる力量を備えることが、心理職に求められる重要な基本事項の一つです。周知のように、認知行動療法は従来難治といわれてきた『クスリが効きにくい精神症状』へのアプローチ法を明示して、効果のエビデンスを示しました。当日取り上げる対象疾患は、不安障害・気分障害・境界性パーソナリティ障害・統合失調症であり、講義の途中でQ&A形式でディスカッションするワークショップ的な部分も設ける予定です。

プログラム第6）イメージを用いた心理療法の基礎と展開

10:30～12:00：河合俊雄（京都大学こころの未来研究センター） 「夢」
13:00～14:30：田中康裕（京都大学大学院教育学研究科） 「描画」
14:40～16:10：川戸圓（川戸分析プラクシス） 「箱庭」
16:10～16:30：全体討議・質疑応答（司会 田中康裕）

ユング心理学は、「イメージの心理学」とも言われ、その臨床実践においても、夢、箱庭、描画等のイメージが重視されます。それらイメージを用いた心理療法の基礎と展開について、3名の講師が各々、夢・箱庭・描画に関して具体的な事例も交えながら講義することで、セラピストの基本的な態度やその適用可能性等について、受講者の皆さんに理解を深めてもらいたいと考え、この講座を企画しました。